

I 全体概要

I 調査の概要

(1) 調査実施日

令和7年4月17日(木)……………小学校国語、小学校算数、小学校理科、
中学校国語、中学校数学

令和7年4月14日(月)～17日(木)…中学校理科(CBTを用いたオンライン方式)
中学校生徒質問調査(オンライン方式)

令和7年4月18日(金)～30日(水)…小学校児童質問調査(オンライン方式)

令和7年4月1日(火)～17日(木)…学校質問調査実施(オンライン方式)

(2) 調査対象

小学校第6学年の全児童

中学校第3学年の全生徒

(3) 調査内容(教科、質問調査)

① 教科 小学校 国語(45分) 算数(45分) 理科(45分)

中学校 国語(50分) 数学(50分) 理科(50分)

※中学校理科のみCBT調査

② 質問(今年度よりオンライン方式) 児童生徒質問調査 学校質問調査

(4) 参加公立学校数

小学校参加校数 本県 242校(全国 18,289校)

中学校参加校数 本県 144校(全国 9,291校)

(5) 参加公立児童生徒数

小学校児童数 8,094名【国語】(全国 936,137名)

8,090名【算数】(全国 936,399名)

8,092名【理科】(全国 936,576名)

中学校生徒数 7,884名【国語】(全国 870,560名)

7,889名【数学】(全国 871,097名)

7,790名【理科】(全国 864,634名)

2 教科ごとの状況

○平均正答数及び平均IRTスコア、平均正答率、標準化得点

【平均正答数・平均IRTスコア】

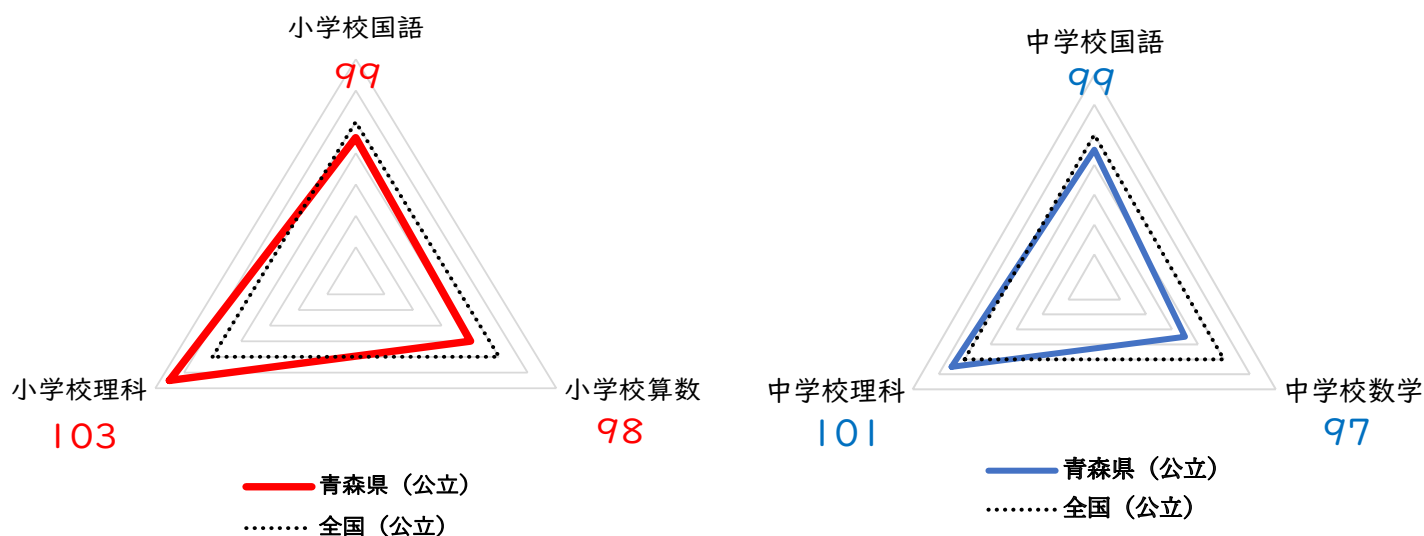
		青森県(公立)	全国(公立)			青森県(公立)	全国(公立)
小学校	国語	9.3	9.4	中学校	国語	7.5	7.6
	算数	9.1	9.3		数学	7.0	7.2
	理科	10.0	9.7		理科	507	503

【平均正答率】 ※都道府県は、整数値での結果公表であった。

		青森県(公立)	全国(公立)			青森県(公立)	全国(公立)
小学校	国語	67	66.8	中学校	国語	54	54.3
	算数	57	58.0		数学	46	48.3
	理科	59	57.1		理科		

【標準化得点】

※ 標準化得点とは、全国(公立)の平均正答数を100とした時の本県の正答数である。



- ・本県公立小・中学校の国語及び算数・数学の平均正答数は、全国を若干下回った。理科の平均正答数及び平均IRTスコアは、全国を若干上回った。また、全国との差については、平均正答数で本県は±0.1～0.3の差が見られる。
- ・標準化得点において、全国の平均正答数と比べると、本県は、±1～3の差が見られる。

○県教育委員会としては、今回の調査結果を全国と同程度と捉えている。

3 質問調査結果

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

(1) 児童生徒質問調査

① 小学校

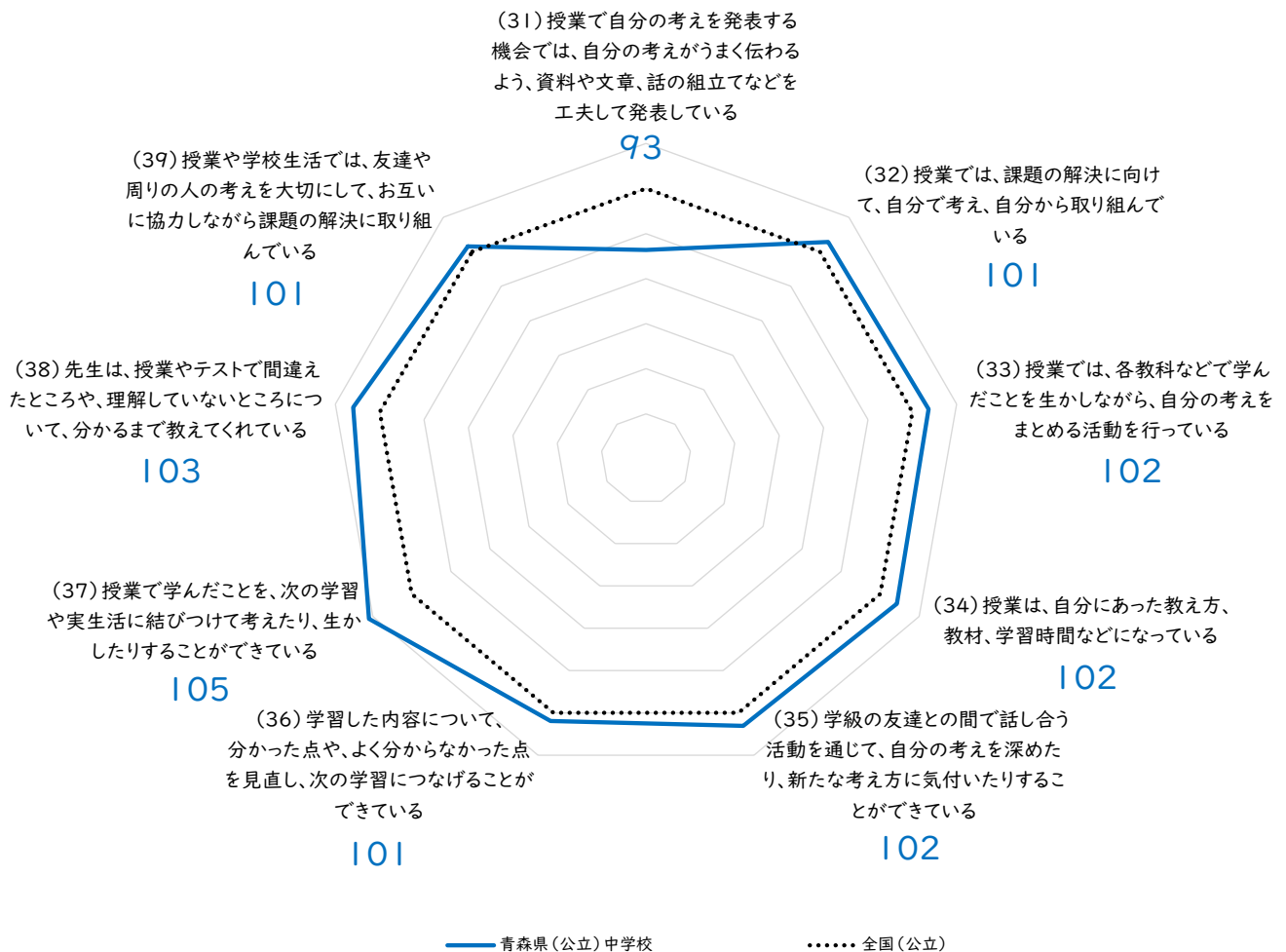


※数値は全国(公立)を100とした時の青森県(公立)小学校及び中学校である。本県の肯定的回答数÷全国の肯定的回答数×100で計算している。(以下同じ)

- ・小学校では、(36)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」、(37)「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」、(38)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と実感している割合が全国を上回っている。
- ・小学校では、(31)「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と実感している割合が他の項目に比べて下回っている。

○本県小学校は、ほとんどの項目が全国と同程度であることから、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が進められていると考えられる。

②中学校

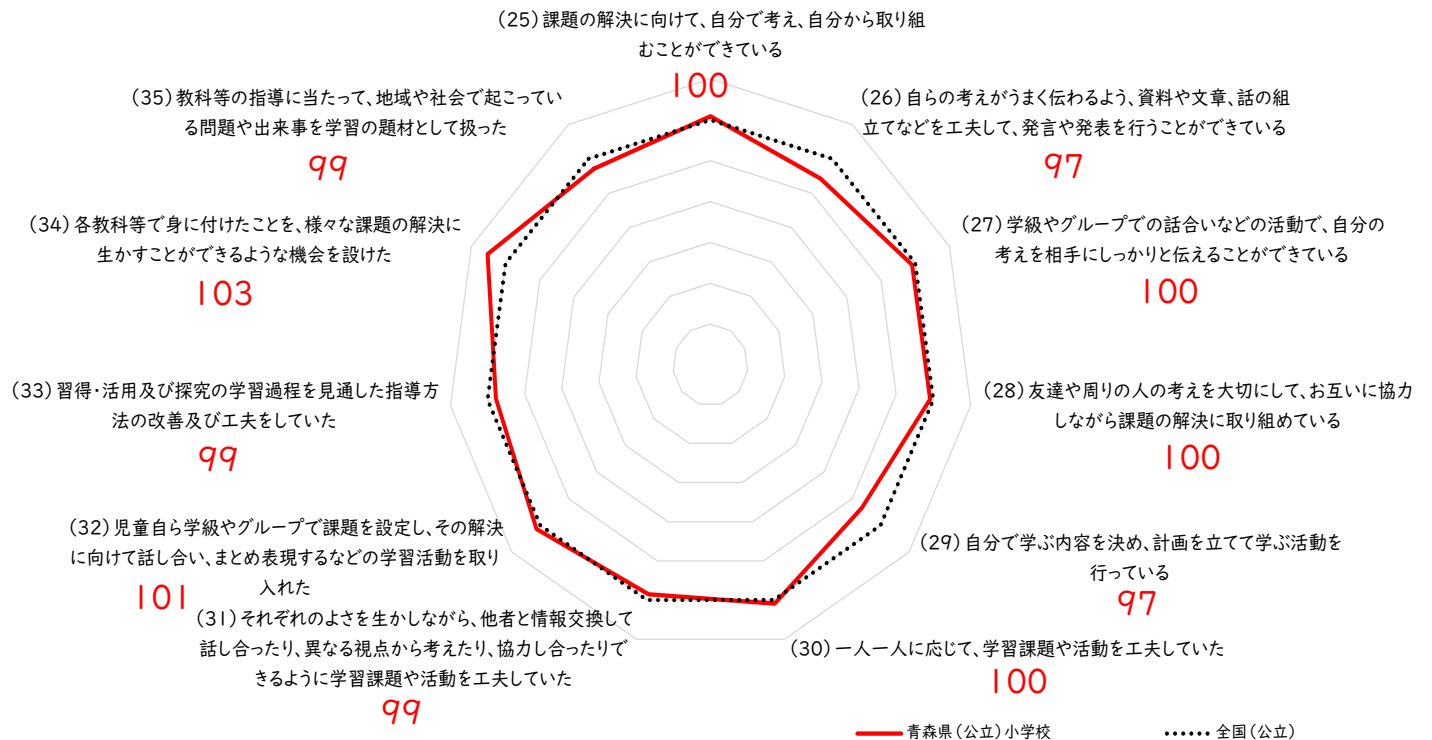


- ・中学校では、(37)「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」と実感している割合が全国を大きく上回っている。
- ・中学校では、(31)「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と実感している割合が全国を下回っている。

○本県中学校は、ほとんどの項目が全国と同程度であることから、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が進められていると考えられる。

(2) 学校質問調査

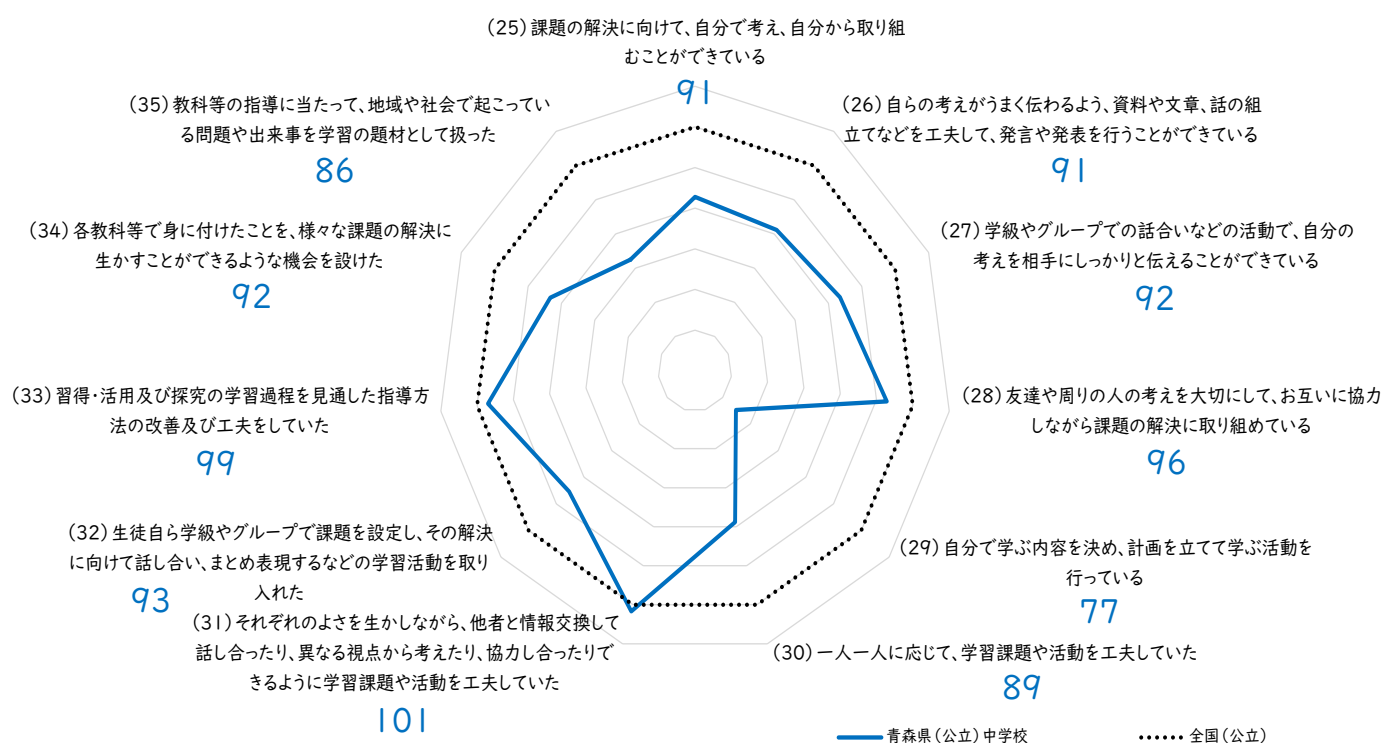
①小学校



- ・小学校では、(32)「児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ表現するなどの学習活動を取り入れた」、(34)「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」が全国を上回っている。
- ・小学校では、(26)「自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる」、(29)「自ら学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている」が全国を下回っている。

○児童質問調査と学校質問調査を比べると、各小学校と児童は、共にほとんどの項目において、肯定的に捉えていることから、学校の児童に対する日頃の指導が、十分に伝わっていることの表れであると考えられる。これは、各小学校の先生方の成果であり、引き続き、取組を続けていただきたい。

②中学校



- ・中学校では、(31)「それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫していた」が他の項目に比べて上回っている。
- ・中学校では、(29)「自ら学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている」が全国を下回っている。

○学校質問調査において、全国を下回る項目はあるものの、各中学校は課題と捉えているが、生徒は肯定的に捉えている項目が多く見られ、生徒の肯定的な評価は、各学校の取組の成果と考えられることから、生徒の肯定的な評価を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に、引き続き、取組を続けていただきたい。